



日本経団連初代会長としての抱負を語った奥田氏
(7.22)

アジア視察団が11/10出発 団長に中井氏(読売論説委員)

主に地方会員社の中堅記者を対象にした「第三回アジア経済視察団」の日程が決まりました。十一月十日に出発、二十一日帰国の十

二日間。訪問先はシンガポール、マレーシア、ベトナムの三カ国です。マレーシアは第一回に続いて二度目の訪問になります。

大統領・首相クラスの政府高官や党首脳、経済・金融担当閣僚および政府系や民間のエコノミストとの記者会見、現地進出日本企業との視察など、幅広い取材を予定しています。現在、在日大使館を通して三カ国政府、関連する団体、企業などと交渉中です。固まりしだい改めてお知らせします。

視察団の構成はこれまでと同様、事務局を含めて十五人程度を考えています。過去二回の参加社は、地方会員社で八社、在京社で

日本記者クラブ会報

第390号
2002年
(平成14年)
8月10日発行

〒100-0001
東京都千代田区幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル
©社団法人 日本記者クラブ

六社を数え、うち九社是一回、二回とも連続しての参加です。

在京社には論説委員などのベテラン記者の参加も呼びかけ、団長・副団長を引き受けていただきました。今回もいま現在で、在京社から読売新聞論説委員の中井康朗さん、日本経済新聞編集局アジア部長の脇祐三さん、共同通信編集局経済部次長の山本武信さんの参加が決まりました。中井さんには団長を、脇さんと山本さんには副団長をお願いする予定です。

これまで二回の訪問国では、最高指導者との記者会見がすべて実現しています。直接、首脳に質問できるチャンスが少ない地方紙、地方テレビ局から参加した記者には、いい刺激になったようです。地方会員社の、ふるっての参加を期待します。

一方、七月号の会報でもお知らせしましたが「第五回記者研修会」

は八月二十九―三十日です。一日目の最初の研究会講師に日本銀行副総裁の藤原弥さんが決まり、すべてが確定しました。

ご承知の通り、藤原さんは時事通信社出身で日本記者クラブの功労会員第一号。取材する側とされる側の貴重な体験を踏まえて、ジャーナリズムならびにジャーナリストのあり方を語ってもらいます。題して「取材される立場になって分かったこと」。ほかは、すでにお知らせした通りです。申し込み締め切りは八月十六日です。

奥田会長昼食会に百六十人

七月の行事は、日本経団連の初代会長に就任した奥田碩トヨタ会長(二十二日)司会・杉田理事長(二十三日)など昼食会二回、記者会見二回、研究会三回のほか試写会、見学会も行いました。奥田会長は、小泉首相のリーダーとしての資質を評価。改革への支持を表明する一方で、進捗の度合いについては「十五点」という厳しさも。詳しくはゲストページをご覧ください。

(専務理事 那部吉正)

ク ラ ブ ゲ ス ト

片山 善博 鳥取県知事

▼ベクトルの転換を

「自治体が住民に説明責任を果たせるかどうか地方分権のリトマス試験紙」「市町村が県を、県が国を見る傾向からベクトルの転換を」。ホテル税をめぐる石原慎太郎東京都知事との論争で有名になったが、なるほどキーワードをちりばめた話しぶりは分かりやすい。

一昨年の鳥取県西部地震で、政府と対立しながら、家を失った被災者に県単独で建て替え費用三百万円を出したことも有名だ。政府は「税金はパブリックなもの。個人の住宅再建というプライベートなところにすぎ込むのは財政上のルールに反し、憲法違反だ」との立場。しかし、現場に足を運んで出した知事の答えは住宅再建支援だった。「現場に近い



7.5 (金) 昼食会
司会 神志名泰裕委員
橋本五郎委員
出席 71人

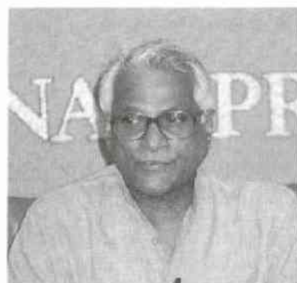
ところで問題を解決していくことが重要「国の方針がおかしいと思ったら、地方から声を上げていく。これを日本中でやれば必ず日本は変わっていく」という言葉通り、国にお伺いを立てる地方行政からのベクトル転換の必要性を強調した。

昼食会当日、長野県議会で田中康夫知事への不信任決議案が可決された。鳥取県でも中部ダム建設計画を中止している。県が片山知事就任前に公表していたデータではダム建設で百四十億円、河川改修だと百四十億円。しかし、百四十億円は一九七二年の計画当時に盛り込まれたままの数字。換算し直すと二百四十億円、河川改修も不必要な堤防などを見直した結果、三十一億四十億円になり、二百億円を節約した。県議会も自民から共産まで賛成に回った。長野について「車の両輪で、適度の距離があるべき知事と議会が、信頼感もなくバラバラ」と断じたのが印象的だった。

読売新聞地方部

山浦 義弘

ジョージ・フェルナンデス インド国防相



7.8 (月) 記者会見
司会 清水修身委員
西村好美
出席 58人

▼テロに對話は通じるか

9・11事件をきっかけに陰悪化したインド・パキスタン関係は、米国の仲介が奏功して一触即発の状態が回避されたとされている。流動化した南アジアの現実、そんな生易しいものではない。会見でも、流布している楽観論を戒めた。

当然、問いは「印パ戦争は起きるか」ということだ。これに対し国防相は、緊張の源となっているカシミール過激派のパキスタンからの越境活動が、いったん減少していたにもかかわらず六月半ばから増え始めた」と説明した。そして、インドがこれまで対パ武力行使に出ず、自制を働かせてきたと強調したうえで、「越境テロはいっせ爆発するかわからない」と語り、状況次第で戦争に発展する

可能性を排除しなかった。

興味深かったのは、パキスタンとの對話を重視していると言いつながら、「我々が直面しているのはテロであり、テロとの戦いには對話はありえない」と述べた点。これは、米国の対タリバン戦争に踏み切った論理に通じるもので、インドが軍事作戦を行う場合の根拠になるだけに、すこみがあつた。

一方、核使用については、先制使用しないとする自国の核ドクトリンを掲げ、「核の問題で心配することはない」と言い切った。しかし、隣国への不信は言葉の節々に表れ、信頼醸成の難しさを感じさせた。

労働組合の闘士、野党政権樹立の立役者、そして、今や民族主義政党率いる連立政権の主要閣僚。ダイナミックな生き方を、その雄弁が支えた。時間が足りず私の質問の一部に答えられなかったため、帰り際に「ソーリー」と声を掛けてきた。国民的な人気がうなずけた。

個人D会員(毎日新聞OB)

川西 和夫

ク ラ ブ ゲ ス ト

岩室 紳也 厚木保健所保健予防課長

▼教室でのコンドーム教育

八月になると横浜には毎年、エイズ対策に取り組む全国のNGO関係者や保健行政の担当者が集まってくる。AIDS文化フォーラムin横浜というイベントが横浜駅に近い「かながわ県民センター」で開かれるからだ。厚木保健所保健予防課の岩室紳也課長は、泌尿器科の医師であり、同時に「コンドームの達人」と名乗るエイズ予防教育の第一人者であり、文化フォーラムの運営でも中心的な役割を果たしてきた。

研究会でのお話もそうしたマルチの活躍を反映して、文化フォーラムの紹介から中学、高校でのコンドーム教育の模様、そして「なぜ教室でコンドームなのか」という極めて刺激的な話題にまで及んだ。

文化フォーラムは横浜で国際エイ



7.11 (木) 研究会
「HIV/エイズ」④
司会 宮田一雄委員
出席 24人

ズ会議が開かれた一九九四年に始まり今年(八月二十四日)で九回目。展示や講演、討論会などは全国から集まった参加者が交通費まで自己負担して実施し、会場は四千人近い人でにぎわう。エイズに対する社会的

関心の低下が指摘されるが、努力すれば関心は高まるということを示す見本のような催しである。

コンドーム教育では、「チャンピオンくん」というベニスの模型を使った「正しいコンドームの付け方」が披露された。百貨店の実演販売員も顔負けの巧みな話術は、年に百回以上も中学、高校から講演依頼があるという実戦経験のたまものだろうか。中学生にコンドーム?寝た子を起こすようなものではないかという批判は当然あるが、岩室さんは「寝た子は起こそう、健やかに」と切り返し、「本音をいえばセックスをするなど言いたい。でも、それを言ったとたん、子供たちはそっぽを向きますよ」と語っていた。

産経新聞編集局次長

宮田 一雄

研究会 政と官—公務員制度を考える②

▼「政と官」論点を整理

ほんの少し聞きかじっただけで、ずっと前から知っていたような顔をするのが、新聞記者の習性である。その一人としては、まことにありがたい二時間の企画だった。

国内外の公務員制度に精通した西尾勝国際基督教大学教授と、首相秘書官として「政と官」の問題点を体験した成田憲彦駿河台大学教授という組み合わせで、公務員制度から見た「政と官」の論点が整理された。

西尾氏はまず、米、英、独、仏の公務員制度を概括的に説明。選挙で勝った政党が官職をすべて獲得する米国型システムも改良が加えられ、中立性が保たれる独、仏のシステムが加味されてきている点などが説明された。任用システムも、米国は開放型、独仏は閉鎖型だが、折衷の動



西尾 勝
国際基督教大学教授



成田 憲彦
駿河台大学教授

きも出ているという。

成田氏は日本型公務員制度の特殊性を解説。法律上は「国民全体の奉仕者」と位置付けられているものの、実際には人事も政策決定も各省庁の縦割りで進められていると説明した。

さらに、政府が進めている公務員制度改革について、西尾氏は①省庁別採用②キャリア制度③ピラミッド型人事構成、などの根幹は維持されていると指摘した。

省庁再編とともに導入された副大臣、政務官をどう活用するか、事務次官、局長などの政治任用(ポリテイカル・アポイント)をどうするのか、などの課題も整理された。民間人の登用を進めることや、幹部候補のI種とノンキャリアのII種の採用を統合する、といった具体的な

ク ラ ブ ゲ ス ト

「処方箋」も示された。

成田氏が強調していたように、公務員制度も、日本のほかのシステムと同様、右肩上がりの高度成長に依拠した枠組みである。時代の変化に合わせて抜本的な見直しが迫られているのだが、その動きは鈍い。

与党による法案や予算案の事前審査制度、内閣と与党との二元的政策決定、族議員と官僚・業界との癒着……。鈴木宗男議員らの疑惑の背景

奥田 碩 日本経済団体連合会会長

▼小泉改革は十五点

「現状は十五点。昔は十点と言っていたが、道路や郵政など、やっと最近物事が動いてきた」

とつとつとした語り口ながら、小泉改革について断固厳しい評価を下した。経団連と日経連が合併して発足した日本経団連の初代会長に就任して二カ月。トヨタ自動車会長、政府の経済財政諮問会議民間メンバー（民間議員）という三足のわらじをはく。

奥田氏は六年半もフィリピンに「左遷」されながら、創業一族の豊田章一郎氏（後に経団連会長）に認

には、「システム破綻」とも言える根深い問題が横たわっている。それらをどう解析し、見直していくのか。アカデミズムの知恵を借りながら、ジャーナリズムが掘り下げていかなければならない課題である。

朝日新聞編集委員

星 浩

7・12（金）研究会 司会 川戸
恵子委員 出席 68人

められ復活。前任の豊田達郎氏の病氣により急きょ社長に就任し、「変化しないことは悪いこと」とトヨタの「大企業病」退治に取り組んだ。

「小泉首相はリーダーとしての資質を十分持っている。応援したい」と首相にエールを送りながら、あえて辛口の通信簿を披露した心は、国際競争の世界で改革の難しさや痛みを身に染みて知っているから、と読んだ。

日本の将来のために企業改革や社会保障改革の重要性を説いたのは当然として、印象的だったのは「二十世紀を多様な価値観を認める心の



世紀にしたい」と語ったことだ。「新しい経済・社会の発展の原動力は、精神面の豊かさを求めるエネルギー、つまり人々がそれぞれの多様な個性を生かし、自分らしく生きることを通じて得られる充実感ともいうべきものに求めるべきだ」「豊かさの中での人間の尊厳とはなにかが、今

アサン・ディオップ ILO（国際労働機関）事務次長

▼エイズ報道の減少に警鐘

エイズウイルス（HIV）は、感染者が働き盛りの世代に多いという意味で、企業や経済の問題でもあるとの指摘には納得できる。だが、時間が限られていたため、内容が総花的になった感否めない。

それよりも興味を引いたのは、エイズと報道の問題だった。

日の課題」という財界リーダーの発言に新鮮さを感じたのは私だけではないだろう。

「国家の改革においては、指導的な立場にある人が、自ら率先して痛みを受け入れる姿勢を示さなければ、国民の行動を促すことはできない」と、政治にはもつと厳しくあつてほしい。日経連会長時代は「人間の顔をした市場経済」など分かりやすい標語を打ち出した。アイデアと実行力に期待したい。

共同通信経済部長

伊藤 修一

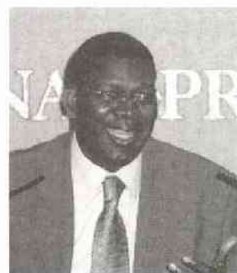
7・22（月）昼食会 司会 杉田
亮毅理事長 羽生健二委員 出席
162人

「汽車の到着時間が遅れると、ギャーギャー言うが、正確に着くようになると、何も言わなくなる」

エイズに関する報道が減少している現状を、こう例えた。

「十年も同じことが続くと、マスクミは興味を失ってしまふ。イベント性がなくなり、陳腐化したということだろう」とも指摘した。

ク ラ ブ ゲ ス ト



研究会
「HIV/エイズ」⑤
委員
宮田雄一
本多真知子
34人
7.24 (水) 司会
通訳 出席

フランスを念頭に置いた発言だが、状況は日本も同じといえよう。薬害エイズ事件を境に、エイズに関する記事は新聞からめっきり少なくなったことに表れている。新聞記者として一九八〇年代半ばからエイズ報道に携わり、その盛り上がり、衰退の両方を見た。

ロブサンギーン・エルデネチョローン モンゴル外相

▼日本は戦略的パートナー

モンゴルのことわざに「放した馬は捕まるが、放した言葉はつかまらぬ」というのがある。

記者会見でのエルデネチョローン外相のとつとつとした語り口は、言葉を大切にする人のそれだった。

日本・モンゴル外交関係樹立三十周年を記念しての同外相の訪日は、偶然にもモンゴル出身力士・朝青龍(本名ドルゴルスレン・ダグワドルジ)の大関昇進が決まった日と重な



ずつと心に引っかかっていたのは、国内のHIV感染者数が増えているにもかかわらず、なぜ報道は下火になるのか、何とか盛り返す方法はないのか、ということだった。筆者の質問に対して「エイズ問題を担当する記者同士が集まって、国民の関心を引くようなことを起こさなければならぬ」と強調した。その通りだろう。我々から行動を起こすことが必要なのだ。重い宿題をもらったような気がした。

東京新聞・中日新聞論説委員

日比野守男

り、日本は戦略的パートナーだ」と強調し、アジア諸国と経済協力関係を深めていく姿勢を示した。

もちろん同国が「困難な移行期にある」と率直に認め、民主化、改革支援に感謝しつつも「経済が自立してこそ互恵関係を築ける」と指摘することを忘れなかった。

モンゴルの面積は日本の約四倍。

人口わずか二百五十三万人。一人当たりのGDPは三百九十ドルに過ぎない。貧困対策をはじめとする経済政策や経済インフラの整備、増大する対外債務や不良債権の処理、産業振興など、政権政党である人民革命党が解決すべき課題は多い。

とはいえ、九八年にARF(ASEAN地域フォーラム)への参加を果たした同国は、今後APECや上海協力機構に参加し、アジアを軸に積極外交を展開していくだろう。外相の真摯な言葉は、こんな希望をもたせるものだった。

北海道新聞国際部デスク

先川信一郎

7・24(水) 記者会見 司会 小
池洋次委員 通訳 大東亨 出席
42人

お願い 会員の声から

日本記者クラブで開催される記者会見に出席してひとつだけ気になることがあります。

一部の会員は質問に立った際、無意識のことでしようが、ズボンのポケットに手をつっ込んで話しておられます。それはゲストに対して失礼にあたるのではないのでしょうか。できれば、やめていただきたいと思えます。かく言う私自身、振り返ってみて、そういう態度をとったことがないと言いいられる自信はありませんが、メディアに関わる者の心得として、謙虚さを大事にしたいと思うのです。

個人会員 竹居照芳

安倍フェローシップ奨学研究者募集

国際交流基金日米センターは米社会科学界研究評議会と米国学術団体評議会との共同で、安倍フェローシップ奨学研究者を公募しています。学者や研究者のみならず、ジャーナリストにも門戸が開放されており、米国などで最長一年間、自由にリサーチと執筆活動に取り組めます。募集締切は九月一日。応募要領など詳細は、SSRC安倍フェローシップ・プログラム東京事務所へ(電話 〓五五六一―三三〇六 <http://www.ssrc.org/fellowships/abe>)

書いた話 書かなかった話

「あさま山荘」前夜の事件捜査

連合赤軍追及に緩みなかったか

石岡 莊十

中央高速をぶっとばす。塩山署に入ったのは午前零時だった。

「やっと来たな」と警視庁公安一課の内田尚孝警部（後に、あさま山荘事件で狙撃され殉職）。

午前二時、防弾チョッキで身を固めた私服の捜査員百人と機動隊員百五十人とともに出発。一列縦隊で山道に入ると、あたりは漆黒の闇。しんと寒気がせまる。

灯はだめ、音を立てるな、話をするな、左の手を山肌につけて歩け。右側は切り立った崖だ、踏み外すと真逆さまだぞ……。

ようやく夜がうつすらと白み始めるころ、登山者風の男が二人前方から降りてくる。男は内田警部のもとにまっすぐ駆け寄って、耳元でなにかささやく。公安部の探偵だった。

赤軍派五十三人は「福ちゃん荘」

でぬくぬくと眠りこけていた。寝込みを襲われた「兵士」のなかにはパンツ一枚で屋根伝いに逃げ惑うものもいたが、あっけなく一網打尽となった。総理官邸に爆弾を投げ込みながらダンブカーで突っ込む訓練をしていたというが、男に身を寄せて震えている高校生らしい少女も混じっている。「なーんだ、ガキの戦争ごっこじゃないか」。そう思った。捜査員も「これで赤軍派はほぼ壊滅」と胸を張る。だが、それは甘かった。

感度の悪い携帯無線をなだめなだめ原稿を送る。扱いは全国向け七時のニュースのトップで納得。だが、一段落すると腹ペコだった。ふと見ると、魔法瓶のふたにほかほかみそ汁を注いで握り飯をパクついているヤツがいる。ものほしそうな視線を感じたのか

「イシさん食えよ」

と読売の大内孝夫記者（現東京本社常務事業局長）。このうまかったこと。

赤軍派はこの後、M作戦と称し

このところ、なぜか七〇年安保

時代の『事件』に題材をとった映画が次々と制作され、なにかんづく当時、事件に関係した人々の関心を集めている。「につぼん零年」「光の雨」「突入せよ！あさま山荘事件」。後者二作品（いずれも当クラブで試写）の主役は「連合赤軍」である。描かれた事件は突出して強烈だが、ここに至る裾野にも、実は、忘れられない数々の事件があった。

大菩薩峠のアジトへ向かう

当時のメモをひっくり返してみると、赤軍派が公然と名乗って姿

を現したのは六九年九月四日の葛

飾公会堂での結成大会だった。三百人ほどが、女物のナイロンストッキングを頭からかぶってわめきまくる変な集団だった。

その年は、日米安保条約の自動延長を翌年に控え、正月早々の東大安田講堂の城攻めという大事件を乗り越えたばかりだった。これで学生運動は急速に沈静化する、とだれもが思い始めていた。

赤軍派の大会から二カ月後の十一月四日夜、「赤軍派が大菩薩峠の山中で軍事訓練」という情報が入る。警視庁泊まりだった私は、携帯無線をひつつかんでハイヤーで

て警戒手薄な千葉、神奈川、宮城、鳥取(米子)などで郵便局や銀行を次々と襲って、合計千数百万円を強奪する。

京浜安保共闘との接点

同じころ(六九年九月)、「銃口から革命は生まれる」という過激理論のもと、京浜工業地帯の労働者や学生で結成した「京浜安保共闘」は、米大使館や米軍基地を火炎ビンなどで襲撃していたが、七一年二月、真岡市で銃砲店を襲って、ついに、銃と実弾を獲得する。

日米安保条約の自動延長の後、警視庁担当をクビになり、労働担当に転進していた私は、七一年七月二十三日、私鉄総連大会の取材で米子市に出張していた。

ドンピシャ、その日の午後、松江相互銀行米子支店で銀行強盗事件発生。「犯人は黄色のヘルメットに猟銃の四人組」と聞くと、ついこの間まで公安事件担当だった者としては聞き捨てならない。一カ月前の横浜の強盗事件とそっくり

ではないか。そうであれだ。

ただちに、警察庁担当の記者に連絡。一連の事件で指名手配になっていた十三人の顔写真の電送を依頼。これをサツ回りの記者に持たせて、行員に面割をしてもらった。このとき、地元の刑事に必ず同行してもらおうと念を押した。

結果は犯人四人のうち二人がそっくりという証言。記者と同行した刑事は「犯人は赤軍派です」と手柄顔で電話で上司に報告していたという。持っていた顔写真は刑事さんにプレゼントした。

七時のニュースは「赤軍派と京浜安保共闘が地下でドッキング」とぶちあげた。

まもなく、分解した猟銃を持った手配中の一人が非常線にひっかった。案の定、銃は京浜安保共闘が真岡市の銃砲店から奪った銃十一丁のうちの二丁と確認された。このころ治安当局は「安保は終わった」とほっと一息ついていた。が、実は真岡事件のあと、銃は関東中心の捜査網をかいぐって館

林↓北海道へと運び込まれていた。二カ月後、北海道のアジトから上京した京浜安保共闘の幹部二人が、銃二丁と実弾二百発を赤軍派幹部に売却。さらに、その年の十二月(あさま山荘事件の二カ月前)、両派の幹部が合流。ここに「連合赤軍」が生まれたことが明らかになるが、それはずいぶん後になる。それからのことだ。もはや「戦争ごっこ」とはいえない立派(?)な「超過激派武装集団」に変身していたのだった。当局のわずかな気の緩みを突くように、時代の鬼子は密かに暴走へのトリガーを引き絞りとつあった。

そして、あの凄惨なリンチ殺人事件「光の雨」や「あさま山荘事件」へ一気に突っ走ることになる。

歴史に「もし」はない。しかし「あのとき、せめて銃だけでも発見できてれば……」とどうしても考えてしまう。

七〇年安保の写真記録(七一年五月発刊)の見開きに、佐々淳行氏(当時、警視庁警備一課長で、

「あさま山荘事件」の原作者)は「異常な時代を共に過ごした記念に」と添え書きしている。

そう、確かにあの時代の彼らの行動は異常だった。だとしても、「赤絨毯族」が業者の稼ぎをかすめ取ろうと、最新鋭の自衛艦がインド洋まで出陣しようと、いま若者は「ニッポン、ニッポン」の大合唱。これは正常?

若いエネルギーが影を潜めて三十年。W杯で見たあの熱気は、この後どこへ向かうのだろうか。



いしおか・そうじゅう会員 一九三五年生まれ NHK札幌 報道局社会部 大阪府警キャップ 整理部 仙台報道統括情報システム室長 (株)NHKコンピュターサービス常務などを務める 九八年退職

書いた話

書かなかった話

●長野県出直し知事選

ワーキング
プレス

混戦模様、冷静に丹念に

▼花岡 秀則

(信越放送)

「不信任は突きつけたが対抗馬がない」―田中康夫前長野県知事に「資質がない」と不信任決議案を可決した長野県議会。しかし議会側の思惑通りにことは運ばなかった。

最大会派・県政会の幹部らは、知事候補の擁立は順調などとうそぶいていたが、県選出の国会議員や閣僚経験者、道路問題等に詳しい県出身の作家など、「ラブコール」は軒並み空振りの状態が続いた。しかも田中県政の支持率は上昇傾向に転じた。

対話路線をとらない田中前知事対県議会の亀裂が決定的となつて行われる出直し知事選挙、議会側は一騎

打ちの構図を予想していたが、八月初旬までに前職と新人合わせて五人が名乗りをあげた。出直し選挙は一転して混戦模様になった。

受けて立つ構えの田中前知事、失職と議会解散のいずれを決断するのか注目されこともあって、在京の報道機関も続々長野入りして、取材陣は日増しに増加した。

県庁まで十五分かけて徒歩で登庁していた田中前知事、自宅マンション前から県庁までの「ぶら下がり」は、恒例の取材ポイントだった。

七月五日の不信任決議案採決の日、朝八時頃から集まり始めた報道陣は百人近くに達した。中には、車道の真ん中でリポートを試みる在京のキャスターもいて、クラクションが鳴り響く始末。梅雨時の蒸し暑さが混乱に拍車をかけてい

た。沿線住民から弊社に苦情が寄せられなかったのは救いとしても、反省は残る。

自身の「資質を問いたい」と失職・再出馬の道を選じた田中前知事だが、決断まで十日を要した。この間の発言は、毎日ニュースで取り上げざるを得なかった。

メディアを巧みに利用する田中前知事、画になる発言や行動が相変わらず多いのが事実だが、日々の報道が選挙活動に利用されるのではないかと危惧は常に抱いている。しかし特にこの間は、対抗馬の擁立が水面下で行われていたために、どうしても田中前知事の出番が多くならざるを得なかった。

今回の選挙は、そんな田中前知事の言動の特異性、政治手法が争点の一つになりそうだ。「理念はいが、資質に問題」「市町村長に相談がない」「国との対話ができない」「旧体制に風穴を開け、役割を終えた」など、対立候補の主張はほぼ共通している。

対する田中前知事は「市町村長や県議も一市民として参加する無

党派の方」「国家観が違う方」などと皮肉交じりで応酬している。政策の違いは前面に出ず、「資質」に矮小化されそうな恐れがつきまとう。長野県の将来像をめぐる論争を期待したいところだが……。

立候補予定者はいずれも無党派を標ぼうしていて、「組織型」ではなく、「市民運動型」の選挙を目指すと言っている。二年前の前回選挙で従来型の組織選挙を打破した田中前知事の余波だ。

しかし、政党や県会議員、市町村長らは表立った行動は避けているものの、一人の対立候補支援に向けて結束をはかり始めた。「組織型」が今回も批判を受ける可能性が出てきた。

注目の投票は九月一日。センセーショナルな興味本位の報道も目に付く中、地元のメディアとして冷静に丹念に取材・報道する決意である。

はなおかひでのり 一九九二年入社 司法担当 東京支社などを経て 〇二年から県政担当

●スー・チャーさん解放

ワーキング
プレス

「伝える」
責任を実感

▼道傳 愛子
(日本放送協会)

「ニュースで遅れをとった
ら、担当記者は丸坊主」。二年
前、バンコク支局に赴任する
と、支局長は記者としての心
得を話してくれた。続けて、そ
の時は支局長も一緒に丸坊主
です、と言った。真顔だった。

それからほどなくして、ア
ウン・サン・スー・チャーさんが
事実上の自宅軟禁下に置かれ
た。ミャンマーの民主化への
取り組みはどうなるのか、軟
禁解除の措置はいつとられる
のか、東南アジアを取材する
記者に共通の関心事となった。
報道番組の仕事を通してニ
ュースを伝える経験は積んだ
が、ニュースをいちから取材
する経験はなかった。念願の
現場で取材の機会が与えられ
たとはいえ、いわゆる「サツ

まわり」も担当したことがない中で、
いきなり、軍事政権下のミャンマー
担当……これは大変なことになっ
た、と思った。

外国の報道機関が、ヤンゴンに支
局を開設することは、まだ許可され
ていない。入国するには取材ビザが
必要だが、多くの場合、一週間程度
有効なビザしか発給されない。発給
には日数を要する。つまり、何か起
きてからでは間に合わず、あらかじ
めビザを入手し、すでにミャンマー
入りしていなければならぬ。バン
コクでほかの取材をしながら、ミヤ
ンマーからも、常に目が離せない。
いつも内側から胃をつがまれている
ような気分の毎日が始まった。
今年五月六日。スー・チャーさんが
解放されるのではないか、という情
報が広まり、ヤンゴン市内の国民
主連盟の本部前には、早朝から続々

と市民が集まっていた。その十日ほ
ど前に、国連特使が軍事政権、スー・
チャーさん双方と会談した。ヤンゴン
で取材をしていて解放が近いのでは
ないか、という印象を持った。支局
長の指示の下、バンコク支局からは
アフガニスタンに出張中の同僚以
外、全員と、ハノイからも記者がヤ
ンゴンに合流し、取材態勢を整えた。
解放の一週間前だった。

市民は、すでに木の上、車の上、
塀の上、と少しでも高いところに鈴
なりになっている。昼前には、その
数は千人にもほり、通りを埋め尽
くして身動きがとれないほどだっ
た。真夏並みの日差しが真上から照
りつけた。歓声が遠くで、近くで呼
応し、人の波が揺れる。揺れる波の
中で押され、転びそうになる。と、
手のひらが背中に触れ、強い力で押
し出された。

気がつく、人波の最前列にいた。
押したのは、私よりも小柄なミヤ
ンマー人のおばあさんだった。「もつと
前に行きなさい」と言う。起きよう
としていることを、自分の目で見て
「伝える」のは、この場に居合わせる
ことができた者の責任だと思った。

「チャマバーゼ！ チャンタバー
ゼ！（元気で頑張つて）」。スー・チャー
さんが姿を見せるとさらに歓声があ
がった。歓声の中を、スー・チャーさん
は、もみくちゃになりながら、拍手に
笑顔でこたえ、目の前をゆつくりと
横切つて党本部の中に入つていった。

スー・チャーさんは、ミャンマーで
は「the lady（こ婦人）」と
呼ばれることが多い。その言葉には
尊敬とともに、名前を公に口にする
ことがはばかれる事情が映し出され
ていた。解放から三カ月。民主化へ
の取り組みを進めるために、今、ス
ー・チャーさんはもはや民主化運動の
シンボルとしてだけではなく、政治
家として軍事政権側と粘り強く交渉
を続けることが求められている。

バンコクでの二年間、丸坊主にな
ることは何とか免れた。任期を終え
帰国したが、「伝える」仕事に終わり
はない。時に、背中を押した手のひ
らの感触とともに、歓声の中で聞い
た「もつと前に行きなさい」の声が
よみがえる。

どうでん・あいこ 一九八八年NHK入局
ニュースキャスターなどを経て 二〇〇
〇年六月からこの七月までバンコク特派員
現在 アナウンス室

W杯が残したもの

小さな会場地の大きな成果

斎藤 敦

(茨城新聞鹿嶋支社)

茨城県鹿嶋市の県立カシマスタジアムでサッカー・ワールドカップ(W杯)の予選三試合が行われた。アルゼンチンとドイツ、イタリアの強豪三カ国が登場し、好ゲームを繰り広げた。警備や交通輸送など大会運営の大きなトラブルはなく、市民ボランティアの活躍が目立つ大会になった。取材した関係者の多くは「何事もなく終わってよかった」とホッとした表情を見せた。

参加者らが大会の約二カ月前から、慌ただしく準備を進めた関連

鹿嶋
発

茨城

イベントも、来場者の反応は予想をはるかに上回るものだった。国内十会場の中で最も小さな会場地らしく、手作りの歓迎イベントで観戦客を迎え、会場周辺のにぎわいをつくったとして、多くのマスコミに取り上げられた。

本紙取材陣も、海外からの観戦客の多くから、スタジアム周辺のイベントや歓迎装飾を絶賛する声を聞いた。少ない公共交通機関や宿泊施設、繁華街の寂しさを指摘する声も一部にはあったが、市民参加による手作りのホスピタリティ(もてなし)は、それらのマイナスを打ち消した。

第二戦目のドイツ・アイルランド戦(六月五日)は、茨城開催の成功を象徴する盛り上がりだった。約三万六千の観衆のうち、一万人以上の外国人サポーターが詰

めかけた。試合前はイベント会場で缶ビール片手に陽気に騒ぎ、試合後のスタンドはアイルランドの善戦をたたえる大合唱。県が用意したキャンプ村近くの海岸では、キャンプファイヤーを囲んで明け方近くまで歌い、踊る姿がみられた。世界の祭典の楽しみ方を見せつけられた感じがした。

大会前、外国人サポーター＝フーリガン(暴徒化したファン)と考え、スタジアム周辺の混乱を想像しておびえる市民も多かった。

市民が実際に目にしたのは、祭典を全身で楽しむ各国サポーターの姿だった。スタジアム内外で、外国人とみられるグループによる連続四件の出店荒らしという「おまけ」が付いたものの、それも含めて、市民にとっては、多くの外国人を一度に迎え、異文化に触れる良い機会になった。

鹿嶋は十年ほど前から、鹿嶋市などを本拠地とするサッカーJリーグ鹿島アントラーズの活躍で全国に知られるようになった。そして今年、W杯会場地として、世界デビュー

を果たした。「この盛り上がり」を三日間で終わらせてはいけない」という地元の声は強い。今後は、スタジアムの利活用はじめ、有形無形のW杯の財産を生かしたまちづくり、人づくりが求められる。

県や鹿嶋市など行政はじめ、市民の取り組みがすでに始まっている。日韓交流の活性化を目指す児童合唱団や、鹿嶋市と韓国側開催地の一つ西帰浦市との交流、スタジアム運営の民間活力導入の検討、地域スポーツ文化の育成など、W杯開催を契機としたさまざまな活動が見られる。地域にとっては、大会自体の成功以上に、W杯開催で得た財産をまちの将来にどう生かしていくかの方が大切な課題といえる。(さいとう・あつし)

鹿嶋市一口メモ

人口 63,166人
世帯 22,421世帯
面積 92.96平方キロ

茨城県の東南部に位置する。古くから常陸国一の宮・鹿島神宮の門前町として栄えた。1960年代の鹿嶋開港で鹿島港と臨海工業地域が建設され、急速に工業化した。95年9月には鹿嶋町と大野村が合併し鹿嶋市が誕生。鹿嶋―東京駅間は高速バスで約2時間。新東京国際空港までは東関東自動車道経由で約30分。周辺3市町とともにサッカーJリーグ鹿島アントラーズのホームタウンとして知られる。9月には鹿島神宮で12年に一度の大祭・御船祭が予定されている。

見学会

七月三十一日、気温三十五度という猛暑の中を日本記者クラブの会員三十五人、暑い暑い石炭

火力発電所の見学会に出席した。場所は横浜市磯子の港湾施設の中に、この四月一日にリニューアルオープンした電源開発(株)の磯子石炭火力発電所であった。もともとここには二基の石炭火力発電機(出力各二・五万KW)があったが、増大する電力需要への対応、老朽化した設備の更新、窒素酸化物の削減対策などを目的として平成八年以来、建設中であつた一基の出力六〇万KWの新一号機が運転開始したものだ。

見学会にあたっては電源開発(株)本社の山崎副社長、鳥越広報室長、発電所の岩永所長らの説明があつた後に、三班に別れて発電所内を案内してもらつた。旧発電所と同じ構内



磯子石炭火力発電所

の狭い土地に背の高い九九・七メートル高のボイラー建屋に隣接して、高さ五五・八メートルのタービン建屋を建て、その中に最新鋭技術を駆使した新石炭火力発電所一号機がコンパクトに収まっていた。燃料の石炭は細かく切断され、とんがり帽子をかぶつた高さ五四・五メートルの円筒型のサイロ四基の中に貯蔵され、そこからベルトコンベヤーでボイラー室に圧送され粉々にされて燃やされる。

排気ガスは乾式排煙脱硝装置、電気集塵装置、乾式排煙脱硫装置などを通して高さ二百メートルの煙突から排出される。脱硫した硫酸は肥料などにされ、石炭灰は土地造成やセメントの原料に使われる。

見学会を終わって、長い将来のエネルギー資源として豊富な石炭に注目したいと感じた。

個人D会員 (NHKOB)

村野 賢哉

■会議報告■

第144回施設運営委員会

(7・4 ゴールドルーム)

五月、六月の貸室利用とアラスカの売り上げを事務局が報告した。

出席 田村委員長、今田、田村、柳原、中原の各委員。

第234回会報委員会

(7・10 小会議室)

七月号について意見交換し、八月号、九月号の編集方針を協議した。

出席 住田委員長、小川、尾崎、平野、堀内、元田の各委員。

第312回企画委員会

(7・11 宴会場)

新委員の金重紘・時事通信解説委員長(旧・福沢重夫氏)、渡辺典二郎・テレビ朝日報道局次長兼コメンテーター室長(旧・今村千秋氏)、元田成・NTV外報部長(旧・足立久男氏)があいさつした後、会見などの司会をした委員から報告をした。事務局から夏の記者研修会のプログラムと十一月の第三回アジア視察団について説明があり、了承した。

出席 君和田委員長、住川、山田、伊藤、清本、永野、花岡、宮田、金重、菅沼、神志名、迫

田、羽生、川戸、元田、渡辺、和田、ワグナー、中村、川内の各委員。

第299回会員資格委員会

(7・23 小会議室)

門田新委員長と新委員の瀬戸純一毎日新聞論説副委員長(旧・菊池哲郎氏)、村神昭NHK報道局編集主幹(旧・内村正教氏)、岡元隆治TBS報道局取材センター長(旧・武田信二氏)のあいさつがあり、その後、八月一日付の会員入退会を審議し、理事会に答申した。

出席 門田委員長、瀬戸、岡崎、塚越、村神、岡元、船田、工藤の各委員。

第367回理事会(書面)

次の理事交代を承認した。

全国朝日放送

(新) 宮地 正美 報道局報道専任局長

(旧) 中井 靖治

寄贈書

人で振り返る野球ハンドブック2002年版 生原伸久会員
放送史への証言(Ⅲ) 内川芳美会員
四国放送の五〇年 四国放送



●囲碁の会○

紅友会と対抗戦

七月二十七日(土)に恒例の紅友会との対抗戦を行いました。九回目の今回は、紅友会から二十四人のご婦人が参加しましたが、連日の猛暑のせいなのか、クラブ男性陣の出席が十七人と過去最低の人数でした。そのため、男性は一局終わると休む間もなく次の対局へ。世話人にせかされながら、普段よりたくさん打つ

「幸運」に恵まれました。しかし体力、気力(棋力ではありません)に限界があったか、結果はクラブの三十五勝三十六敗。五年ぶりの負け越しでしたが、その中で、石川基さんが五連勝、柴田鉄治さんと中俣富三郎さんが四連勝、安原和雄さんと宮沢昭二郎さんが三勝一敗と大いに気を吐きました。

□将棋の会□七月二十七日(土)
例会には近藤卯一、重定尚志、柴田鉄治、林茂雄、森田昌芳、安原幸雄、和田正光、丸本聡明、宮沢昭二郎、池上雅己の各氏が参加しました。安原さんが五勝一敗で、アマ六段格の基準持ち点へあと八点と迫りました。今回は、八月三十一日(土)午後一時から小会議室で行います。

私が勤務している英国大使館では、今年いっぱいかけて日本の町や村に英国生まれのオークの苗木を植えてもらう活動を行っている。題して「日英グリーン同盟」。今年が日英同盟の締結百周年にあたるということで、その記念事業として行われている。最初は一県・一カ所の約五十カ所と想像していたのであるが、これが増えに増えてしまっ、最終的には二百カ所くらいになりそうである。二百カ所もあると、いろいろと偶然とか知らなかった日英関係の歴史が分かったりして楽しい。明治のころの日本では、「よくもまあ」と思うほど、当時の英国人がいろいろなことをやっている。

山口県豊北町と和歌山県串本町がオークを引き受けてくれた理由は、両方とも百年以上前に、リチャード・ブランドンという英国人技師が灯台を作ったということで、灯台は今も現役なのだそうである。

「日英グリーン同盟」展開中 明治時代の両国関係史の発見も

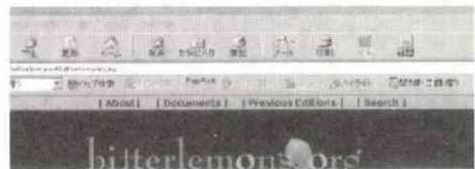
熊本にはハンセン病患者の救済に努力をしたとされるハンナ・レデルという女性宣教師を記念する病院があるし、山形県南陽市は旅行家のイザベラ・バードがその美しさを海外に紹介したということで記念の公園があ

る等々、数え上げるとキリがない。感激ものは鎌倉の鶴岡八幡宮。大使が植樹式にうかがったのだが、実は英国人がここに木を植えるのは我々が最初ではなく、明治十六年にヒマラヤ杉を寄贈した英国人がいたということが社務所の公式記録に載っている。その木はまだ元気に立っているのだそう。なぜ「感激もの」なのかというと、鎌倉時代から続いているこの公式記録に当方のオークとゴマソール大使の名前が記載されるかもしれないということなのだ。歴史だけではない。ワールドカップ

に関係した「偶然」もある。イングランドのキャンプ地であった淡路島の津名町に植えるのは当たり前として、アルゼンチンのキャンプ地である福島県檜葉町、アルゼンチンとイングランド戦が行われた札幌市にも植えられた。イングランドがアルゼンチンに勝ったのはグリーン同盟のオークのおかげであることは間違いない(と自分勝手に思い込んでいる)。こんなことなら対ブラジル戦が行われた静岡県袋井市にもお願いしておけばよかった!? フランスが今回振るわなかったのは、キャンプ地の指宿市にイングリッシュオークが植えられたからでは絶対ない!
イギリス大使館広報部 春海二郎

苦いレモンは いかが？

▶平山 健太郎



官、テルアビブ大学「ジャッファ・センター」の所長、アメリカのユダヤ人団体ジューイック・シュ・コミッティの在イスラエル代表などを歴任している。ジャッファ・センター所長当時（九三年ごろ）、パレスチナ側との最終的な和解の処方箋として、

ガッサン・ハティブ氏は、パレスチナ人民党（PPP・元共産党）の幹部で、この六月、労働相としてパレスチナ自治機関に入閣した。大学教授から政治活動に加わり、湾岸戦争後のマドリード中東和平会議には、パレスチナ代表団の一員として参加している。JMCC（エルサレム・メディア・コミュニケーション・センター）の責任者として、各種の世論調査、政治分析文書の刊行などに活躍し、とくにアメリカや日本を含む、外国テレビの間で、その歯切れよく客観的なコメントが好評だった。

ヨシ・アルファ氏は、元アメリカ人で、イスラエルに帰化した後、国防軍の将校、諜報機関モサドの分析

ヨルダン川西岸占領地の一部（一〇％内外）をイスラエルが併合し、残りの地域をパレスチナ側に返還するという構想を、具体的な地図（アルファ・マップ）とともに提唱し、今でも、領土交渉のタキヤ台になっている。ハティブ氏と同じく、アルファ氏も、外国テレビが、オンカメラの即席コメントを求めやすい貴重な存在である。

生い立ちも立場も違うこの二人が、出口の見えない騒乱の中で、去年の十一月、共同でインターネットのサイトを立ち上げた。その名は「苦いレモン」(bitterlemons)。(名前は、アルファ氏が提案し、ハティブ氏が賛同した。オスロ合意

の前後、イスラエルとパレスチナの共存への道を模索する双方の知識人たちが、しばしばシンポジウムなどを開いては、意見を戦わせてきたいきさつがあり、現在の逆風の中でも、対話の窓口は開けておこうというのが、サイト立ち上げの背景である。週替わりで両氏が基調の論評を書き、ゲストたちが論争に加わる趣向だ。

例えば、七月十五日付を見ると、クリントン・バラク政権下で不調に終わったキャンプデービッド交渉を振り返り、今後につながる問題点を洗い出した両氏の論評に加え、イスラエル側は、シロモ・ベン・アミ外相(当時)、パレスチナ側は同交渉の代表団員で、「アラファト後」の指導者としても取り沙汰されているモハメド・ダハラン氏(アラファト議長)の治安担当補佐官)それぞれのインタビューが載っている。

さらに、レーガンからクリントンまで三代の大統領に中東担当補佐官としてホワイトハウスで仕えた、ブルース・リデル氏の証言も載っている。バラク首相が、和平への譲歩の代償として、NATO並みのアメリカとの公式な軍事同盟条約や、三五

〇億ドルに上る各種の援助を要求し、クリントン大統領が、同意していたなど、興味深い内容だ。

どなたでもサイトへのアクセス歓迎。ご質問にはemailでお答えすると、アルファ氏は言っている。「苦いレモン」……おひとついかがですか？

(NHKOB)
http://www.bitterlemons.org
bitterlemons.org

EU大使が日本にエール 四年間の任務を終えたユール・ヨーゲンセン大使のお別れ会見が七月十日、駐日欧州委員会代表部主催で行われた▼「京都議定書の発効など、日本とEUが力を合わせれば米国抜きでもできることがある」と、9・11以降ますます一国だけで物事を進めることは現実的ではなくなったとし、日・EU関係の強化の重要性を訴えた▼日本に対して「痛みを伴う改革を乗り切る力がある。そのことに自信を持ってほしい。この国の最も大きな資産は勤勉さなど国民の力。発展を支えたその能力を大切にしたい」とエールを(十階ホール)

プロフィール

◇個人D会員

六、七月一日付入会の個人D会員、法人賛助会員、特別賛助会員の方々です

△法人会員代表変更▽

日刊工業新聞社

(新) 菅野 泰平 代表取締役会長

(旧) 藤吉 敏生

東京放送

(新) 井上 弘 代表取締役社長

(旧) 砂原 幸雄

読売テレビ放送

(新) 泉 巖夫 代表取締役社長

(旧) 土井 共成

山形放送

(新) 佐藤 充彦 代表取締役社長

(旧) 玉虫 義孝

京都放送

(新) 加藤 哲夫 代表取締役社長

(旧) 古家野泰也

広島ホームテレビ

(新) 古川 吉彦 代表取締役副社長

(旧) 畠中 昭史

NHK情報ネットワーク

(新) 宮本 克彦 代表取締役社長

(旧) 佐藤 公臣

衛星チャンネル

(新) 上塚 建次 代表取締役社長

(旧) 堤 啓



夕日に影が長く伸びる中、黙々と打撃練習に打ち込む松井秀喜選手

写真部

写真 多田 貫司

(一九九一年読売新聞入社
現在 東京本社編集局写真部
プロ野球担当)

マッチャの魅力

ジャイアンツの松井秀喜。日本球界を代表するスラガーである。そのフォームは限りなく美しい。ここぞのときに、ホームランを打つこともしばしば(いつもではない)。ファンには頼もしいかぎりである。

だがイチローのような超スターではない。乙女の心を魅惑するようなスター性に欠ける。女子大で教える身としてはそれがよく分かる。なぜか。

「ソフト・マッチャでないから」と答えた若い女性がいた。なぬ、ソフト・マッチャとはなんだ。「筋肉ムキムキの男一〇〇%でなく、筋肉質だが外見はソフト」な男であるそう。そういえば、W杯でも男らしさぶんぶんの中田より、ソフト・タッチの稲本や鈴木が若い女性にはもてた。

英、日、南アの学者の共同研究では、各国の「平均的」な男二十人に、女性の特徴であるほっそりした鼻、愛らしい唇、薄い眉などを加えコンピュータ処理した写真を三百人に見せたところ、十五%女性化した男の顔が最も魅力的との結果がでた。キムタク、ディカプリオなど甘いマスクがもてるわけだ。世は女性化の時代である。

松井選手も若い女性を見捨て、マッチャを好むオジンたちをファンにすえる覚悟が必要かもしれぬ。

(黒岩 徹)

八月十七日はラウンジを閉鎖します

バーカウンター周りの床板張り替え工事のため、八月十七日(土)はラウンジを閉めさせていただきます。九階レストランを臨時にラウンジとしてご利用いただけるようにいたします。ご不自由をおかけしますが、ご了承ください。

なお、すでにご案内のように、八月十二日(月)から十七日(土)の一週間、クラブは午後六時で閉室させていただきます。九階のレストランは、夜の営業を休みます(昼は通常通り)。ただし、十階のアラスカは夜も営業いたしますので、洋食をいつも通り召し上がっていただけます。

会員の著書 (ご惠贈いただきました)

屋山太郎のやさしい政治塾
抵抗勢力は誰か
心のコートを脱ぎ捨てて
中国の世紀 日本の戦略
増田れい子

鮫島敬治・日本経済研究センター編
初心者のための日本経済入門
山田 伸二

浪人と革命家
田所 竹彦

同和鉱業 破壊・創造・スピード
渡部 行

共創のコミュニティ
井上 繁

「成熟消費社会」の構想
栗田 房穂

地球温暖化とアメリカの責任
相良 邦夫

『現代政治のわかる古典案内』

野上浩太郎

(個人D会員 元共同通信政治部長)
小泉改革の行方をはじめ現在進行中の政治を、東西の古典的な名著から読み解く、というのが本書の狙いである。古典には古くはプラトン「国家」やアリストテレス「政治学」、さらにマキアベリ「君主論」やウエーバー「職業としての政治」を取り上げた。福沢諭吉の「学問のすすめ」、夏目漱石の「三四郎」、ドストエフスキ「悪霊」も材料にした。それらに記された指摘が、ここ十年くらいの日本の政治の底流を指し示していることを書いた。

(中公新書ラクレ 六八〇円)



『オリガルヒ(政商)ーロシアを牛耳る163人』

中澤 孝之

(個人D会員 元時事通信外信部長)
「オリガルヒとは？」ーソ連解体後のロシアで政治・経済の混乱に乗じ、主に国有財産を「略奪」して成り上がった一握りの実業家たちだ。ベレゾフスキー、グシンスキーなど日本でもおなじみの有名オリガルヒに加え、準オリガルヒのほとんどを網羅した。独自の仕分け方法により彼らを分類し、民族出自も可能な限り明確にした。しかし、単なる人名録ではない。エリツイン政権との癒着にも迫った。とりわけ、巻末の人名索引はお役に立てると思う。オリガルヒ研究の集大成。

(東洋書店 一八〇〇円)

クラブの電話
(ダイヤルイン)

- ・和食レストラン(9階) 3503-2723
- ・洋食レストラン(10階) 3503-2766
- ・貸室予約 3503-2724
- ・受付・宴会打ち合わせ 3503-2721
- ・クラブ行事への申し込み 3503-2722
- ・会員事務担当 3503-2725
- ・経理担当 3503-2728

招待券

朝日新聞社から「発掘された日本列島二〇〇二展」「飛鳥・藤原京展」「高句麗今昔を描く 平山郁夫展」「セバスチャン・サルガド写真展」「アフガニスタン 悠久の歴史展」・読売新聞社から「西川寧展」・日本経済新聞社から「古代エジプト展」・産経新聞社から「モングール近代絵画展」・ピカソ 天才の誕生展」の招待券をご惠贈いただきました。お礼申しあげます。

会員現況 法人会員 一四九社 基本会員 八二〇人 個人会員 一、七六四人 法人・個人賛助会員 七八社 二一〇人 特別賛助会員 六六人名誉・功勞会員 一三人

計 二二七社 二、八七三人

会報委員会

委員長 住田良能
委員 小川津根子 尾崎美千生 中山司朗
平野恭子 堀内敏宏 元田 成
連絡 長谷川和子 本庄五月
(電話) 〇三―三五〇三―二七五二
(FAX) 〇三―三五〇三―二七二一